

ふれあいトーク記録書 （ 議会報告会 ）

開催日時： 平成31年2月23日（土） 午後2時 ～ 午後4時

場 所： くすのきの家

参加人数： 38人

次 第： 1. 開会挨拶 黒川議長 「今期最後の議会報告会。この4年間でふれあいトークを45回開催し、延べ千人の参加があった。市民との連携は議会の原点。予算審議前に市民に説明し、市民の意見を市政に反映させていく」

2. 議員自己紹介 13人（相原議員欠席）

3. 予算（主要）説明 宮川議員

4. 質疑・意見交換

5. 閉会挨拶 大野副議長

※司会／大野副議長、受付／塚本議員・榊谷議員、駐車場係／伊藤議員・堀議員、写真／伊藤議員、記録／木村議員

項目	参加者の意見・質問	議会の応答
執行機関の参加について	議会報告会にも執行機関が参加すべきである。	
市の財政について	一般会計157億円という予算とのことだが、過去5年間の傾向から見て、歳入の確保は大丈夫なのか。	財政調整基金を2億8千万円取崩して、歳入を確保している。
議会費の検討について	議会報告会では、議長交際費でペットボトルのお茶くらいは出すべき。議会費の議論は議会ではしにくい。市民を加えて議会費の検討をすべき。市民は議会を応援	議会サポーター制度を活用して、議会費の検討をしていきたい。

	していくべきである。	
身の丈に合った行政について	市の財政についてマクロ的な話もすべき。総論を説明してから各論に入っていくべきである。身の丈に合った行政を行うべきで、フルセット主義は無理。財政力を改善していく方向が重要である。	入りをもって出を制す。必要なものと無駄なものをしっかり見極めていく。歳入で市税は伸びている。市債発行額、市債残高、基金取崩をしっかりと抑えていく。現状の財務状況は監査では安全となっている。
桜通線の整備について	ソフト面とハード面の予算があるが、優先順位が大事。どれも大事な事業だが、優先順位をきちんと決めるべきである。岩倉駅の乗降客やバローの客が減っていないか。桜通線については、生きているうちに整備してほしい。 桜通線の費用対効果は考えるべきである。行政監視と政策提言という議会の機能発揮を求める。	国からの交付金が見つからない状況がある。桜通線は2025年度完成予定で、予算もついており優先度が高い。現在、用地買収を続けている。 駅東の活性化という点では、江南岩倉線も整備しないと効果が少ない。費用対効果、人口減少の時代なども考慮しなければならない。都市計画道路を変更するのは大きな困難がある。
新規事業について	新規事業ではどのようなものがあるのか。	オリジナル婚姻届・出生届・バックボード作製委託事業、産後ケア事業、小中学校スクールソーシャルワーカー設置事業などがある。

若者の参加について	議会報告会への若い人の参加が少ない。	前回は参加があった。今後も呼びかけていく。
無駄遣いを止める議論について	議会として政策へのビジョンを出していくべき。公共施設再配置計画で13%の床面積を削減とあるが、新しい公共施設（ハコモノ）づくりもある。予算を使うことばかりが議論されており、政策の議論が弱い。政策の議論があって事業がついてくる。経費削減、無駄遣いを止める議論をお願いしたい。議会はお金の出入りをチェックする機能を発揮してほしい。	公共施設再配置計画では、床面積1万3千㎡の削減目標。北小学校体育館の建替えから始まるが、複合化（放課後児童クラブ施設）はハードルが高い。このままでは、ただの体育館建替えに終わってしまう。
集会施設の譲渡について	公共施設再配置計画では、集会施設を行政区に譲渡するという内容もあるが、行政区が拒否したらどうなるのか。	20年後くらいの第3期の計画の中に集会施設の行政区への譲渡がある。修繕計画がきちんとされていないといけない。
将来を見据えた財政運営について	市の財政は厳しくなっていく。長期の支出を見据えた予算が必要。高齢者増に対する予算も増えていく。シティプロモーション事業はまだやるべき方向なのか。しっかり質問や指摘をしてほしい。成果報告書ではPDCAを強調しているが、C（チェック）が弱い。	愛知県は不交付団体が多く、岩倉市の財政は県では下位だが、全国では上の下である。予算・決算のチェックはしっかりやっていく。
市の財政の見方について	「岩倉市はお金がない」「将来、市の財政は悪くなる」と思っている市民がなぜこんなに多いのか。お金がなくて事業ができなかったことはなく、予算の執行残も多額にあり、毎年数億円から10億円くらいの剰余金が出ている。 執行機関が市民の声を聴く余裕がないという状況は良	女性や若者の意見集約が不十分。市民の意

	くない。縦割り行政で予算がない部門もある。	見を聴くための工夫が必要である。
寄附について	市民憲章を広めたい。愛媛県で1億円の寄附があったが素晴らしいことである。市民憲章を実現するための寄附は謙虚に受けてほしい。	物品での寄附を受ける基準をつくっている自治体もある。現金の寄附なら、ふるさと応援寄附金もある。
性の多様性を尊重する社会について	L G B Tなど性の多様性を尊重する社会であってほしい。多目的トイレのあり方や名称についても考えてほしい。	数名の議員が一般質問で取り上げたが、市の対応はこれから少しずつという状況である。東京都には「だれでもトイレ」という名称が使われている。
家庭の大切さについて	三世代同居への支援があり岩倉市に転入した。家庭というものを大切にしてほしい。それが地域コミュニティを良いものにし、市をつくっていく基盤となる。	

↑適宜行追加